

ようこそ、チャペルへ！ 歓迎します。

山 本 俊 正

新入生の皆さんには、関学に入学されたことを心より、お祝いいいたします。おめでとうございます。関学の入学式や宣誓式は礼拝形式で行われるため、新鮮に感じた人もいたと思います。しかし、戸惑いもあったかもしれません。関学は創立以来、この大学でのチャペルを大切にしてきました。つまり、大学のチャペルは、関学の教育のいちばん根本にあるもの、関学を関学たらしめているものといっても過言ではないと思います。チャペルでは、各学部の宗教主事（チャプレン）、学内の教職員のお話（チャペルトーク）、キリスト教の音楽グループ等の演奏を聞いたりします。チャペルでは、聖書に基づくキリスト教信仰や経験を共有し、共に祈る時をもちます。また学内の教職員からは、普段教室では聞くことのできない、それぞれの実存から語られる言葉を聞くことができます。本を読んで学んだことではなく、人生の経験を通して学びとった真理を語る言葉です。自分を学問研究へと駆り立てる、最も内なる動機が何であるのか、自分という人格を根柢から支えているものが何であるかを語る言葉です。

チャペルとは日本語にすると礼拝になりますが、厳密には、教会以外で行われる礼拝のことをいいます。大学チャペルに限らず、キリスト教の礼拝は、キリスト教徒だけが参加するものではありません。人がキリスト教徒であるかないかということは、神の前では、相対的な違いにすぎません。むしろ、これまでキリスト教に接したことのない人こそが、礼拝に招かれています。チャペルトークを担当する一人一人も、聖書や神学の専門家に限りません。キリスト教というと、牧師や神父といった、いわゆる聖職者を思い浮かべる人が多いかもしれませんが、関学では、創立以来、普通の信徒である教職員一人一人が、キリスト教を担ってきました。

チャペルの時間、学生も教職員も、自分を越えた存在を感じることによって、今の自分を内省し吟味する時間になると思います。自分が生きていく上で、何が本当に大切なのかを気づかされる時になるかもしれません。また、大学で自分が学んでいることを将来どのように活かして生きていくかの指針を与えられる時になるかもしれません。また、聖書の言葉や祈りをともにすることによって、自分が一人で生きているのではなく、家族や友人に支えられ、生かされていることを静かに思う時間となるかもしれません。ようこそ、チャペルへ。歓迎します。

（商学部宗教主事）